

本の ひろば

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2017年5月1日発行（毎月一回発行）第712号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

まるごとの自分を生きたい 大澤秀夫

田中光三 著

輝け、あなたの誕生日!

私の聖書歳時記366日 藤原孝行

本・批評と紹介

魯恩碩 著

旧約文書の成立背景を問う 大野恵正

W・カスパー 著 / 高柳俊一 訳

マルティン・ルター 鈴木 浩

スサ・ラッサム 著 / 浜島 敏 訳

イラクのキリスト教 川口一彦

本屋さんが選んだお勧めの本

近刊情報

永本哲也・猪刈由紀・早川朝子・山本大丙 編

旅する教会 芦名定道

ハインツ・クルーゼ 著

雨宮慧監修、佐久間勤増補、仲田達男 編集

旧約聖書ヘブライ語文法書 阿部 望

木谷佳楠 著

アメリカ映画とキリスト教 大宮有博

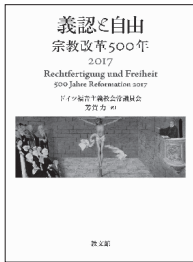
長島 正・長島世津子 著

結婚と家族の絆 崎川 修



5 MAY
2017

近代の自由の
源泉がここに!



ドイツ福音主義教会常議員会著 芳賀力訳
 教会と神学を一新し、社会・文化・政治をも新たに形成した「宗教改革」。
 その中心テーマであった義認論の歴史的・現代的意味をコンパクトに解説。
 宗教改革の世界史的意義を明確にする。

●B6判・160頁・本体1,400円

義認と自由 宗教改革500年 二〇一七

好評発売中!
キリスト教綱要(1536年版)
J・カルヴァン著 久米あつみ訳
 プロテスタント最初の体系的教理書・生活綱領として歓迎されたカルヴァンの処女作。カルヴァン神学の全貌を予告する本書は、若き改革者の信仰の清冽な息吹を伝える。

●A5判・416頁・本体4,500円



G・プラスガー著 矢内義顕訳
カルヴァン神学入門

カルヴァン神学の要点を、主著『キリスト教綱要』の目次に添いながら、信徒向けに分かりやすく解説。16世紀の激動の時代に、人間の魂と教会と世界を建て上げるために生きた彼の思想を、混乱の中を生きる現代人への挑戦として読む。

●四六判・224頁・本体2,400円

和解と一致のために

争いから交わりへ 2017年に宗教改革を共同で記念する
 ルーテル教会とカトリック教会

一致に関するルーテル・ローマ・カトリック委員会著
 ルーテル／ローマ・カトリック共同委員会訳

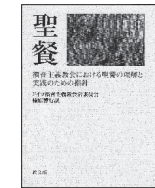


共通の信仰はどこにあるのか? 「義認」「聖餐」「正典」など教会分裂を引き起こした神学的テーマを、両教会の対話を通して克服し、和解と一致へ前進するために不可欠の書。

●B6判・220頁・本体1,200円

聖餐 福音主義教会における聖餐の理解と実践のための指針

ドイツ福音主義教会常議員会著 楠村博行訳



聖書と宗教改革以来の信仰告白に立ち返り、今日の聖餐の理解と実践を問う。誰が聖餐にあずかれるか? 誰が司式できるのか? どのような形で祝われるべきか? など、具体的な問題に踏み込む。

●B6判・136頁・本体1,200円





出会う・本・人

まるごとの自分を生きたい —— 大澤秀夫

小学生のとき、「図書の間」があつて、週に一度、図書室で好きな本を読むことができた。私は伝記が好きで、六年生の頃には棚に並ぶシリーズを全部読んでしまった。野口英世とかキユーリー夫人はともかく、和井内貞行などという人には、それ以来すれちがうこともないのだが。今、振り返って、私が好きだったのは、本の中から立ち上がってくる人間そのものだったのだと思う。

その頃、私は家に帰っても教科書以外に自分の本というものを持つていなかった。だから同級生が岩波文庫を持っていることを知った時には本当にびっくりした。『ファーブル昆虫記』を読んでいたその同級生は後にサンスクリット学者になった。中学生になって私も初めて岩波文庫を買った。内村鑑三の『余は如何にして基督信徒となりし乎』だったが、これにはいわれがある。

六年生の時から通い始めた教会には、若者たちがたくさん集まっていた。ある日、先輩が竹脇真理『勇ましく高尚な生涯』という本を貸してくれた。十八歳で亡くなったキリスト者の生涯の証しで、もちろん書名は内村鑑三『後世への最大遺物』からきている。私たちが死ぬ時、世界に遺すことのできるものは何であるのか。お金や事業、思想にも優つて、それは「勇まし

く高尚なる自分の生涯そのもの」である。中学生の私はそれなりに納得したのであった。

その後、私は学校を終え、製鉄所で働き出した。しかし、「このまま、ここにいてよいのか」という迷いを持つようになった。「日曜日に教会で過す自分」と「会社で働く自分」、そして「教会の言葉」と「生活の言葉」が分裂しているように思えてならなかった。「自分の人生」と「時代」とが結びつかなかった。まるごとの自分を生き、まるごとの自分を生きるための言葉を見つけたと思った。その時出会ったのが、次の言葉だ。

「なおもわれわれを悩ます問いがある。それは、イエスの服従への招きは、今日、労働者や商売人や農民や兵士にどういう意味があるのかという問い、すなわち、その招きを聞けば、耐え難い葛藤がこの世で働いている人間とキリスト者の現実に持ちこまれることにならないかどうかという問いである。」

ボンヘッファーが『キリストに従う』の序言で出している問いは、まさに私の知りたいことだった。決まりきった公式に安住することなく、誠実に問う人がここにいる。それなら私も始めることができるかも知れない。それから私もずっと歩いている。

(おおさわ・ひでお 日本基督教団茅ヶ崎平和教会牧師)

旧約聖書の本源に肉薄する傑出した書
魯恩碩著

旧約文書の成立背景を問う 共存を求めるユダヤ共同体



大野恵正

新年に入ってほぼ一ヶ月を、私はこの書物を熟読することによって、三年ほど前、日本基督教学会で、著者の「契約の書」に関する研究発表にふれて、この人には並々ならないものがあると感じ、以後、著者の発表や発言にアンテナを張っていたのである。

著者魯恩碩（ロ・ウンソク）氏は、旧約思想史家として著名な並木浩一氏の後任として、国際基督教大学が招聘した旧約学者である。ソウルに生まれ、ドイツのミュンスター大学で学位を得たあと、アメリカのドゥルル大学で牧会学を修め、ニューヨークのユニオン神学大学で客員教授を務めたというキャリアの持ち主である。その人柄はソフトで温かい。

魯氏には、天才的な語学の力量があつて、日本に来るまで「ソバとうどんくらいしか日本語を知らなかった」と学生に話しているそうだが、この書物の日本語文は齟齬がないばかりか、立派なものである。これには大変な努力があつたに違いないが、日本で働く学者として、生氣ある正しい日本語を使う。私は魯氏のそうした人間としての誠実に感動をおぼえ

ている。

さてこの本である。「プロローグ」で著者は、この書物が、旧約聖書の成立背景を探索すること、そのために捕囚期とそれ以後のユダヤ共同体を立体的に捉えること、そして謎多く神秘的なこの時代の現実の人々の歴史的・社会経済的試練と苦悩をさまざまなアングルから見ることによって、旧約聖書の本態を学問的に立体的に明らかにしようとするものだと書く。

中心部は「五書」「預言書」「諸書」からなるが、そこに書かれていることは単なる緒論的叙述ではない。「五書」の研究史が第一部の第一章にあるが、ヴェルハウゼン以前の研究史から現在までの五書研究の激烈な流れを、魯氏は見事な筆遣いで描いていく。それは従来の日本の「総説」に収められている「五書研究史」のどれよりも生氣に満ちており、その世界に人を引き入れていく質のものである。

「五書」と言っても著者が取り上げるのは主として「契約の書」と「申命記法典」、「神聖法典」である。著者は「契約の書」をバビロン捕囚を免れたパレスチナ残留民、「申命記法典」を

バビロン捕囚民のうち非祭司的階級のもの、「神聖法典」をバビロン捕囚民のうち祭司階級に由来するものと見ていく。そしてそれぞれの異同を通して、相互間に争闘と葛藤があつたと喝破する。しかもそれらが聖書において共存していることに、聖書の謎と輝きを見るのである。著者は、これら法書の共通のモメントである「貧しい者」の実態を見ることに向かう。

畢竟、申命記主義者、エレミヤ、クムランと死海文書そして著者が「貧者の詩」と呼ぶ十六の詩編を丁寧に分析して、それぞれの文書記述における「貧しさ」の実態を見つめていく。そしてそこに叙述されていることが社会経済的に最底辺に生きる人々のそれではなく、混沌とした社会の中で、傲慢尊大に振る舞う勝者を論敵とし、不安定な身分にたじろぎながら、信仰と正義に適う道を歩もうとする者の生身の現実だと見る。

ここに記される「貧者」の規定、そして「貧者の神学」には意表を突かれる。しかし古代、記述能力の保持は、極く少数の上・中流層の者に限られていたことを著者は見逃さない。した

がって、下層階級の貧しさを呻きがここに書かれているのではないことを承知しておくべきだと、念を押す。しかし著者は記す。「貧者の神学」の著者グループが、自らを「貧者」と呼ぶこと自体、彼らが社会の底辺で生きる社会経済的な弱者と自らを重ね合わせていた可能性があることを示す、と。なぜなら、聖書は先述の「法書」類のように異なる立場の文書を両立させるほど、共存の精神の輝きを保持していると見るからである。この見方はエキサイティングで、多くの論点を含んでいる。「共存の精神」がこの本のキーワードの一つだが、これは異なる立場を併存している聖書の謎から著者が学んでいるところであつて、この点の学びは大きい。今をときめく世界の第一級の旧約学者たちとの立ち回りは興味深く見事だ。ドイツの学者 R・アルベルツ等がしばしば俎上に載せられている。これは聖書の本源に迫る傑出した本である。

（おおの・よしまさ＝活水女子大学名誉教授）

（A5判・四〇二頁・本体四〇〇〇円＋税 日本キリスト教団出版局）

キリスト教誕生当時における周辺
世界の宗教・哲学・習俗を詳説



初期キリスト教の宗教的背景 古代ギリシア・ローマの宗教世界

H・J・クラウク 小河陽 監訳 吉田忍 / 山野貴彦 訳

新約聖書と同時代のギリシア・ローマ世界で庶民がどのような宗教的日常を送っていたか、史料を基に生き生きと描く。ドイツ語圏、英語圏で高い評価を得ている世界的名著、待望の邦訳。A5判・354頁・5400円

上巻

推薦のことは



廣石望

立教大学文学部教授
日本聖書学研究所所長

犠牲を捧げ、死者を祀り、支配者を崇拜し……。当時の宗教世界への最良のガイド・ブックです。

神のいつくしみ

苦しみあわれむ愛

2016年上智大学神学部夏期神学講習会講演集

片山はるひ / 高山貞美 編著

どのようにいつくしみにあふれる神の愛を知り、伝えたいのか。聖書、神学、靈性といった観点からの論考6本を収録。



四六判・170頁・1,944円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

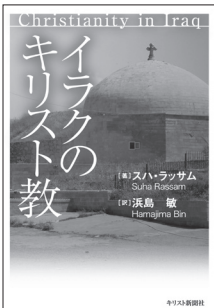
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 【価格8%税込】

http://bp.uccj.jp

資料・文献が希少なイラクのキリスト教史
スハ・ラッサム著
浜島敏訳

イラクのキリスト教



川口一彦

二〇一六年十一月の「第七回国際景教研究学術大阪大会」で本書を紹介したところ、完売となり、本書の注目度が高かった。

今年には宗教改革五〇〇年で洋の東西を問わず記念事業が開催され、西方諸教会の教会史関連書籍は数限りなく伝えられているが、イラクのキリスト教史について知り得る範囲は少ないばかりが、数冊にとどまっている。そのようなことから本書は貴重な翻訳書といえる。

訳者は四国学院大学で長年英文学を教え（現名誉教授）、古今の聖書を蒐集してこられたこともあって聖書語学に精通し、日本景教研究会の会員として日韓で景教について講演して来られた教師でもある。

著者はイラク北部モースル出身のスハ・ラッサム氏で、医師の家族の中で生まれ、バグダッド大学医学部で助教として教えた経歴の持ち主。その後ロンドン大学東洋アフリカ研究所では東方キリスト教を研究した。彼女は多くの専門家から教会史料を集め、これまでのキリスト教史を学び直して、

本書をまとめ上げている。

目次を見れば、キリスト教発祥の古代から現代までの内容となっており、源流は使徒時代までさかのぼり、極めて困難な状況となっている現代イラク・キリスト教の姿も記している。

口絵が二〇枚以上あり、この地の年表や地図も入り、神学用語などの語彙も平易な文で書かれている。

- 第一章 中東におけるキリスト教の母体
- 第二章 最初の四世紀
- 第三章 五世紀と六世紀
- 第四章 七世紀から十六世紀まで
- 第五章 十六世紀から二十世紀まで——オスマン支配のもとで
- 第六章 二十世紀——現代イラク国家
- 第七章 二十一世紀

内容としては、今のシリア、エジプト、イラク、トルコの地は主イエスの福音が伝えられた最初の地で、教会も建てられ、イラクの東方教会では二世紀には教会組織があり、五世紀初頭にローマ帝国支配から独立し、イランや中央アジアの地をシルクロードで商人たちが行きかい、やがて六世紀には公的に中国景教へと伝播したこともある。この部分は知られていないところでもあろう。

第七章では、現在も起きているテロとの戦いの惨状からの回復と平和の祈りが捧げられている。二〇〇四年以降、この地の諸教会や神学校近くで爆薬がさく裂して爆発が起き、多くの死傷者があり、教会関係の建物も破壊されたことを記し、著者の出身地の悲惨さを覚えつつ、これまでのキリスト教徒たちが貢献してきた多くの事柄を無駄にしないために本書を著わしたことが述べられている。

最後に訳者があとがきで記した部分を紹介して推薦文とし

診察室の窓Ⅱ

東京東村山市・
廻田クリニック院長
小林永子著



小林永子著
診察室の窓Ⅱ

「私は患者さんを診ることが生き甲斐です」と語る著者の開業前後から一五年にわたる日々のお出来事を書き綴ったエッセイ。医療の時代的な変化を感じながらも患者さんに寄り添いつつ、聖書の言葉に生かされる著者の思いを重ねていくさりげない詞華集である。

好評発売中！ ●四六判美装・三三六頁・一五〇〇円

たい。

「いまこそ世界のキリスト教徒が教派を超え、一致して声をあげる時ではなからうか。石が叫びだすまで、われわれは沈黙して良いのであろうか。中東やアフリカの地に残されている尊いキリスト教信仰の霊的・物的遺産を大切に、彼らに対する迫害が止み、平和な世界が訪れることを願わずにはいられない。」

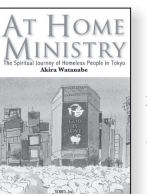
本書は、イラクのキリスト教史にとどまらず、今も困難や迫害の中でおびえつつ過ごす者を覚え、主にあるキリスト者を日々祈りへと導く書物で、一読をお薦めする。

(かわぐち・かずひこ) 日本景教研究会会長、愛知福音キリスト教会牧師
(四六判・三三六頁・本体三三〇円＋税・キリスト新聞社)

渡辺 聡著 村上智恵子訳 限定記本発売中！

At Home Ministry

The Spiritual Journey of Homeless People in Tokyo



岩上敬人氏・評「本書で描かれているのは、アット・ホーム・ミニストリーに携わるTBSメンバーの証しである。…示されている全人格的なアプローチは、特に福音派の教会にとつて大きなチャレンジ」。好評の第一弾に次ぐ英語版の登場です。

●A5判美装・一四四頁・八〇〇円
東京バプテスト教会のダイナミズム
渋谷のホームレスがクリスチャンになる理由
●ヨベル新書010二〇八頁・一〇〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp [税別]
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

必読の一冊
永本哲也・猪刈由紀 編
早川朝子・山本大内

旅する教会 再洗礼派と宗教改革



若名定道

宗教改革五百周年を迎える年に、さまざまな企画とならんで、宗教改革の本質に迫る意欲的な論集が刊行された。宗教改革後に誕生した再洗礼派の歴史の全体像を描く、日本最初の試みであり、少数者から見たもう一つの宗教改革史・キリスト教史の出版を、キリスト教研究に関わる者の一人として心から喜ぶたい。本書は、『福音と世界』における連載がもとになったものであり——私はその愛読者だった——、プロログとエピローグ以外に収録された二四の論考は、一つ一つが連載サイズで決して長くはない。しかし、簡潔で内容の凝縮された論考が相互に結び付くことによって、多岐にわたる再洗礼派の歴史全体を鮮やかに浮かび上がらせている。日本語で読める再洗礼派についてのまとまった研究は最近稀になった感がするが——アーミシュは比較的有名——、読者は、宗教改革のもう一つの歴史について、最新の研究に触れることができる(各論考に付された注や関連年表は有益である)。宗教改革に関心のある方にとって必読の一冊である。

本書は、次のような三部から構成されている。第一部「再洗

礼派の誕生と受難」では、宗教改革後の再洗礼派誕生から、多様な諸運動を内包した初期の歴史が描かれる(16世紀)。第2部「再洗礼派の諸相」は、再洗礼派のネットワーク(前史と空間的な広がり)、讚美歌集、殉教者列伝など、再洗礼派の具体的事例を取り上げ、第3部「近代化する社会を生きた再洗礼派」では、再洗礼派内の主要宗派形成以降の、17世紀から現代までの歴史が辿られる。読者は、宗教改革から近世・近代にかけての再洗礼派諸派の動向、すなわちヨーロッパから新大陸、そして全世界へと続く「旅する教会」に触れることができる。以下、本書の魅力的な内容の一端を紹介したい。

そもそも宗教改革とは何だったのか。それは、ルターの九五箇条の提題において突然はじまり、その影響の下、多様な仕方で展開された諸教派の総体なのであるか。本書が提出する宗教改革理解は、これとは大きく異なっている。それは、宗教改革を突然起こった大事件ではなく、14世紀頃から16世紀初頭にかけての歴史的な脈に位置する「長期的変化の一過程」として理解するという立場であり、それは唯一正しい宗教改革という

見方の転換を迫るものとなっている。そこに提出されるのは、再洗礼派やカトリックも含めて、「それぞれのやり方で宗教改革を行おうとする人々」が存在したことであり、例えば、再洗礼派諸派、心靈主義者、反三位一体論者など、どれも等しく「宗教改革」だったのである。したがって、重要なのは、どれが正統でどれが異端かといったことではないことになる。

本書は、再洗礼派はそれ自体が多様な流動的な運動を包括したものであって、「幼児洗礼を避け信仰洗礼を行うことについては一致していたが」——これが迫害に結びついた——、ほかの教えや信仰生活の仕方については必ずしも一致していなかったことを強調している。再洗礼派諸派においては、財産共有制や非暴力主義がかなり共有されているが、ミュンスター再洗礼派の場合のように集団蜂起を行う事例も存在する。心靈主義への距離や忌避破門の評価も分かれている。最近では、再洗礼派については複数起源説が主流とのことである。

宗教改革後、ヨーロッパ社会は近世の国教会・宗派化(領邦や都市当局によって公認された宗派が国教会を形成し、その教義や儀礼に基づいて領内に宗派的統一を確立する)から信教の自由や市民的平等を認める近代国民国家へと移行してゆくが、この過程で、再洗礼派は多くの殉教者を生み出し、合同と分裂を繰り返しながらヨーロッパ各地を旅し、その一部については新大陸アメリカに到達する——現在、再洗礼派は世界各地に広がっている——。その間、再洗礼派も宗派的アイデンティティを確立させ、国民国家の秩序に適応していった。こうした再洗礼派の旅は、宗教と国家の関係を問い直す指標となり、土着化をめざす教会にとっても、旅する教会の記憶は共有すべき貴重な財産なのである。現代のキリスト教にとって、本書の意義はきわめて大きいと言わねばならない。

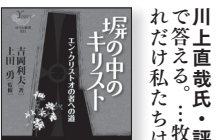
(あしな・さだみち) 京都大学教授
(四六判・三〇二頁・本体一八〇〇円+税・新教出版社)

マッチ棒の詩——服部稔著 死で終わらない人生 服部ますみ の道程



キリスト新聞で紹介: 残された者は与えられた使命を果たすべきであり、大切なのは、葬りではなく、個人の意志を継ぐこと。近しい人の死という誰の人生にも起こる出来事を聖書の解釈と結び合わせて考察。喪失の苦しみにある人々への暖かい励ましが含まれている。 ●三ベル新書040・二四〇頁・一〇〇〇円

吉岡利夫著 上田勇(服部稔)監修 塀の中のキリスト エン・クリストオの者への道

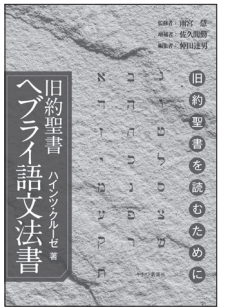


川上直哉氏・評 命がけの問いかけを受けて、命がけで答える。…教師の答えに感激する人がいることを、どれだけ私たちは、本気で想像しているでしょう。…そして初めて、福音がはつきりと輝く。第三部は、本書の白眉です。個人名を伴った「心のまますみ白」(内村鑑三)したものです。 ●山中正義氏推薦 魂のゆびと重生への道 ●三ベル新書031・二九六頁・一〇〇〇円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp [税別]
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・呈

主にある愛労と感謝の結晶
ハインツ・クルーゼ著
雨宮慧監修、佐久間勤増補、仲田達男編集

旧約聖書へブライ語文法書 旧約聖書を読むために



阿部 望

本書が生れた経緯を責任編集者の仲田達男氏はこう記している。「ドイツ人の神父が、上智大学の日本人神学部学生のためにヘブライ語文法書を書いたなどということは、過去にもなかったし、これからも考えられない貴重な労作だと思うので、何とか形を付けて差し上げたいと思ったのである」。毎週日曜日、二時間近くの時間を割いて、無償で五年間にわたり、自らが印刷りのテキストを作り、仲田氏のために文字通り愛労してくださった神父ハインツ・クルーゼ氏と、神父に食らいついて学んだ仲田氏の熱意が本書を世に送り出したのである。一言で言えば「主にある愛労と感謝の結晶」である。

ヘブライ語は独学することが困難な言語である。文字の形やその発音が日本人の私たちには不慣れであり、必死に動詞の活用変化を覚えても、実際のテキストには変化表とは違う形が度々登場しているという事実が直面するからである。聖書へブライ語には、文法的な例外が二千あるといわれている。そこで、聖書へブライ語を教える場合には、相手の理解度に合わせて、なるべく重要度と頻度の高い文法要素を効率的に

提供していくことが肝要である。この心遣いは本書のはしきに垣間見ることが出来る。「本書は、あまり細かい規則や例外は省略して、根本的な知識だけを盛り込むことのみを主眼とした」(八頁)。この配慮が根底にあるため、本書は例外的な形の説明にページを使わず、基本原則を記述することに主眼が置かれている。本書がコンパクトなのはこの基本が生きているからである。そして特筆すべきは、第四部「統語論」である。この部分は上智大学の佐久間勤教授による増補であるが、今までの文法書が語の形態についての説明に終始していたのに対して、聖書へブライ語の構文について詳しい解説が増補されたことは、本書の価値を非常に高めている。聖書の物語文を読む場合には、ただ動詞を一つ一つ追いかけるのではなく、物語の構造に基づいた物語形(wayyiqtol)の連鎖(§276-279)、物語文における倒置、同時性、対比、新たな要素の導入、交差配列法の使用などを見分けながら読むことが重要であるが、その解説がきちんとなされている。できることならもう数頁追加して欲しかった。さらに動詞文と名

詞文の性質、時を表す文、原因文、結果文、比較文、条件文、誓約文などの解説が的確になされているのは大変ありがたい。

ただし複数の人間が関与した結果、統一のない文法書になってしまったのは残念である。クルーゼ氏は初学者をまどわさないために(五〇頁)と聖書に七五回も登場するיחי(wayhi)とつう形をיחי(wayhi)と綴りdages forteを省略しない方法を選択している。ところがこの配慮による形は、聖書本文には一度も登場しない。無用な配慮をするより、聖書ではこのように使われていますと最初から言い切るべきで、実際の形を覚えさせる方が余程効率が良い。ヘブライ語文法では、(yod+swa)の場合は、固有名詞などの例外を除いてdagesが付かないのである。第四部「統語論」では、実際に登場するיחי(wayhi)が使われていて、全体として統一がとれない結果となってしまった。さらに残念なのは、本書中のヘブライ語部分に間違いが多い点である。私が大ざっぱにカウ

ントしたところでは、ヘブライ文字のミスが二四カ所、母音記号のミスが上記のיחי(wayhi)を除いて二七カ所、完全なヘブライ語の誤植が二カ所、現在一般的に使われていない写本からの引用も認められる。これは概数なので、正確にはもっとあるかも知れない。今後これらの誤植を改めてよりよき文法書にすることがこそが、ハインツ・クルーゼ氏への敬意の表し方であると思う。なお、本書の巻末には、上智大学名誉教授である雨宮慧司祭による文字と発音についての解説が付記されているので、合わせて読むことをお勧めしたい。原文から聖意を汲もうとする学徒が次々と現れることを願いつつ。(あべ・のぞみ)日本ヘブライ文化協会ヘブライ語講座専任講師、獨協大学非常勤講師、イスラエル大使館公認ヘブライ語通訳

(A5判・二九〇頁・本体三〇〇円+税・キリスト新聞社)



新刊

死生学年報 2017

死から生への眼差し

東洋英和女学院大学
死生学研究部編
●A5判並製 本体2500円+税

安心して生き、死に切ること
奥野滋子

ケアの場に求められる
宗教性とは何か?
高橋 原

死別後の悲嘆に寄り添う
西尾温文

欲談する死者たち
佐藤弘夫

文学作品から考える
学校における生と死の教育
坪井龍太

ヨブの苦難と変容—
『ヨブ記』の死生観と編集意図
渡辺和子

ある女性の死から生への眼差し
一女性に対する暴力の根絶を
求めて祈る
薄井篤子

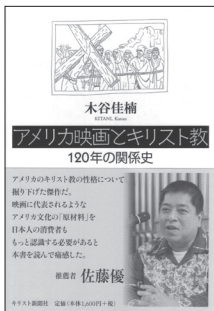
〈エッセイと詩〉
あの日の私の記録
宍戸美夏
他、8篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

「解放の力」はアメリカ映画に残されているか
木谷佳楠著

アメリカ映画とキリスト教 120年の関係史



大宮有博

九・一一の出来事のちよつと前に封切られた『パールハーバー』（マイケル・ベイ監督、二〇〇一年）を、ケンタッキーの田舎町の映画館で観た。報復はアメリカの正義。この映画はそういうメッセージを観る人に送った。今思えば、九・一一後のアメリカの戦争を正当化するまがましい映画であった。

九・一一の翌年に公開された『スパイダーマン』（サム・ライミ監督、二〇〇二年）は、事件の前に撮影された被害にあったビルが映っているシーンなどがカットされるなど大幅な手直しが行われた。九・一一後に付け足されたエンディングシーンでは、スパイダーマンが「大いなる力には大いなる責任がともなう……」と言った後、ニューヨークに翻る大きな星条旗が映る。

アメリカ映画はプロパガンダだ。これを見た時、改めてそう感じた。

『アメリカ映画とキリスト教』は木谷佳楠さんが、二〇一二年春に同志社大学大学院神学研究科に提出し受理された博士

論文をアメリカ・キリスト教史や映画史の専門知識がなくとも読めるように改変したものである。博士論文の題は『アメリカ映画のキリスト教 一一〇年の関係史に関する学際神学研究』となっている。「学際神学研究」ということは、神学と他の学問領域が対話されていることを意味している。本書の場合、アメリカ・キリスト教研究とアメリカの文化学的研究との対話が中心になっている。

本書を一貫する問いとテーゼは明快に示されている。本書は「自由・平等・民主主義が基本理念であるアメリカで製作される映画において、憲法修正一条で守られた信教の自由、言論の自由は本当に有効なのであろうか」という問いが建てられている。そしてテーゼとして著者は、「キリスト教に近いアメリカ独自の宗教的価値観」がアメリカ映画に深く影響を及ぼし、映画表現をコントロールしていると主張する。

第一章は映画が巨大産業になる一八九〇年代―一九八〇年代を描いている。第二章はハリウッド映画揺籃期にプロダクションコードに基づいた自主規制の時代を描く。ユダヤ系な

ど移民の手による映画産業は、「非アメリカ的」産業と目される危険性があった。第三章は赤狩りの五〇年代。このあたりは映画『トランボ ハリウッドに最も嫌われた男』（ジェイ・ローチ監督、二〇一五年）とあわせて読むと面白かった。著者はこの冷戦時代のアメリカの宗教的価値観は、限りなくキリスト教に近いとする。九・一一の時代を扱った第六章の分析は興味深い。確かにソ連が崩壊した後、映画に出てくるアメリカの敵は宇宙人や隕石だった。この頃のアメリカ映画は、なんだかぱつとしない。木谷さんはこの「ぱつとしない」理由をズバツと言ってくれている。この本を読むと、なんだかまた映画を観に行きたくなるから不思議である。

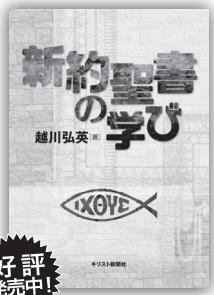
本書は宿題を読む人に課していると思う。アメリカ映画はアメリカ独自の宗教的価値観にコントロールされているという木谷さんの主張に大筋同意したとしよう。しかし、「表現者」とはそういうコントロールにその人なりのスタイルで抗

う。そしてそういう人の手による映画はちくりと社会を批判し、その時に抑圧されている人々に解放の希望を示し、エンパワーする。アメリカ映画―ハリウッド映画だろうがインディペンデントだろうが―の中に、そういう「解放の力」が残されていないのだろうか。神学とは、そういう解放の力を文化の中から見つけ出して解釈するのも役割の一つである。評者はそう考えている。もしそういう「解放の力」がアメリカ映画にないというならば、文化表現が本来持つべき「解放の力」を示す役割は、アメリカ文化では何が担ってきたのだろうか。

（おみや・ともひろ 関西学院大学神学部教授
A5判・二二二頁・本体二六〇〇円＋税・キリスト新聞社

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

これでわかる！
新約聖書の基礎知識

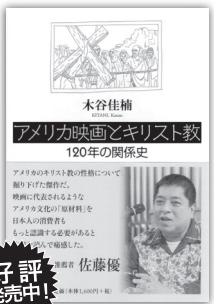


好評
発売中！

新約聖書の学び 越川弘英●著

キリスト教理解への一助となる、聖書への道案内。本書は新約聖書を初めて手にする方々を対象とする入門書である。 ■A5判・308頁・2,000円

佐藤優氏推薦！



好評
発売中！

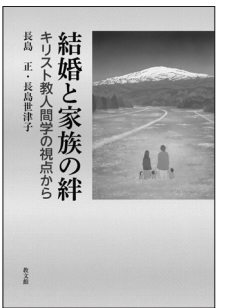
アメリカ映画とキリスト教 120年の関係史 木谷佳楠●著

あの名作映画に隠されていた、キリスト教の影響とは!? ■A5判・212頁・1,600円

キリスト新聞社 since 1946
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL. 03-5579-2432
FAX. 03-5579-2433 (価格は税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

体現された「喜び」「恵み」としての家族論
長島 正・長島世津子著

結婚と家族の絆 キリスト教人間学の視点から



崎川 修

二〇〇七年秋に長島正先生が帰天され、十年の歳月が経つ。当時、先生が上智大学で持っておられた「家族倫理学」の講義を、急遽担当することになり、先生が使っておられた資料集の小冊子やプリントなどを頼りに、覚束ない足取りで教壇に上がった日のことが、とても遠い昔のことのように思われる。もし先生がお元気でおられたならば、カトリックの大学で家族倫理を教えるなどという、誰もが逃げたくなくなるような役割を私が引き受けることはなかっただろう。

先生の去った後に残された大きな穴の中を這い回り、私は自分なりに家族論やケア論を会得しようと努めてきたつもりだった。しかし本書を通じ、奥様の世津子先生の声の響きのうちで、改めて正先生の言葉に向き合った私は、自分が大きな穴の中で地面ばかりを見つめ掘り返していたことに、今更ながら気づかされ、恥じ入った。つまりかつて先生がその場所から見つめておられたのは地面などではなく、振り返って穴のなかから見上げる、青空であったのだ……。

家族を論じるとき、現代の私たちはついそこに「病理」ば

かりを発見し、その原因を論じて、気の利いた処方箋を出そうと躍起になる。それほどまでに家族をめぐる状況が厳しい時代であることも事実だ。家族が個人を守り育てるものではなく、傷つけ追い立てるものと化している場面では、家族という物語の呪縛をいったん解きほぐし、その人の支えとなるかわりを編み直さなければならぬ。

しかし、そうしているうちに、私たちは家族の「喜び」を伝えることに対して、臆病になってしまっただけではないだろうか。母子関係における愛情の大切さについてはしばしば語られるものの、夫婦であること、父であること、あるいは他の様々な家族関係において与えられる「恵み」に適切な仕方ですべしを伝えることを、私たちは怠りがちではないだろうか。

本書の最大の特徴は、家族の絆というものをたんなる「現象」としてでも「教理」「倫理」としてでもなく、まさに「恵み」「喜び」として伝えようとするところにある。それが可能になっているのは、家族関係が伴侶との出会いを通じて開かれ、時を経て実っていく成熟のプロセスとして、「真に」有機

的に表現されているからに他ならない。すなわち本書はその有機性を「夫妻共著」として体現しているものであり、夫婦の出会いから「死」という別れを経て、さらにその先までも続けられてきた、対話と共同作業というパートナーシップの豊かな証となっているのである。

もちろん本書は「現象」としての家族についての理論や、カトリックの教理から導かれる家族倫理についての素晴らしいテキストブックでもある。ただしその視点は決して教条主義的なものではない。著者夫妻はむしろそうした固陋な姿勢からいったん距離をおき、あくまで「人間」の視線からその「愛」と「いのち」の営みを見つめ直し、その中で再び神との関わりを再発見するような方法を、「人間学」の研究教育を通じて探究しつづけてこられた。その豊かな成果は、家庭を人間の生の起点と位置づけ、エリクソンのライフサイクル論を軸に、人間の成長とケアの関係を重厚かつ丁寧に解き明かす

正先生の筆致からも、ひしひしと感じられることだろう。

しかしやはり本書の真骨頂は学問研究を超え、信仰と生活の中から追い求められた「生き方」としての家庭の姿を、青空のような「希望」のうちに謳うところにある。そして最も重要なのは、その源泉が「愛」と同時に「祈り」の中に求められている点ではないだろうか。「死んでも愛しているから」とは、正先生の究極の「愛」の言葉であるが、またそれは無上の「祈り」の言葉でもあったように思われる。

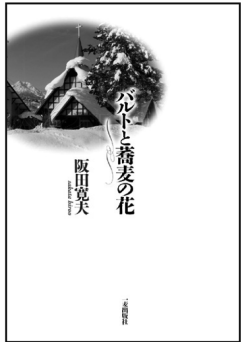
愛の中にさえ希望が見出せない苦悩のときにも、人間に与えられた力、それが「祈る」ことに他ならない。愛は祈りによって謙虚さを取り戻し、そこから、きつと新たな絆を育むことができる。本書を読むと、そんな希望が青空のように、浮かんでくるような気がするのである。

（さきかわ・おさむ）ノートルダム清心女子大学准教授
（A5判・三四〇頁・本体一七〇〇円＋税・教文館）



バルトと蕎麦の花

阪田寛夫
Hiroo Sakata



ふしぎな「元気の素」を探し求めて
雪深い山中にある教会の
クリスマス礼拝に出かける……。
人間関係を挫折し、悩みながらも、
神に近づく歌人牧師ユズルさん。

単行本化が待たれていた
秀作！

四六判・上製
定価 [本体 1,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-098-7



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

あなたの食卓に置いて日々家族で御言葉に親しむ生活に役立てましょう。

田中光三 著

輝け、あなたの誕生日！

私の聖書歳時記 366日



藤原孝行

結論から言いますと、この本はご自分の家族や友人の誕生日、そしてクリスマスや正月に受洗者の方や知人らにプレゼントするのに最適な本です。

さらに多くの家庭で、特にクリスマスチャンホームで、食卓にいつも置いて朝ごとに家族で本書を輪読し、祈りをもって一日をはじめられたら本当に素晴らしいと思います。

著者の田中光三氏と私は、現在の東京基督教大学の前身校である日本クリスチャンカレッジ(JCC)（東京都杉並区高井戸にあった）で、四年間クラスメイトでした。

この学校は全生徒が寮生活をしていましたから、他の大学生に比べると、親密な関係があり、本当の兄弟姉妹のような雰囲気がありました。私は元来慌て者で早口でしたが、田中氏は沈着・冷静で、話すのも、ゆっくり丁寧でした。そんな私たち二人がクラスメイトからは「あの二人は名コンビだ」と言われていました。

それで仲間たちから推されて四年生の前期に田中氏がクラス

委員をし、後期に私がクラス委員をしました。また卒業式での答辞を私が文章を作成し、田中氏がそれを筆で巻紙に書き、私を読みました。ですから、田中氏とは日本クリスチャンカレッジ入学以来、ほぼ六〇年以上の付き合いをしていることになりました。

私の早口は有名でした。一〇余年チャプレンをしていた老人ホーム（キングスガーデン）では、私の説教は早口すぎて聴き取りにくいし、テープレコーダーに録音しても速度調整が難しいので本にしてほしいと言われ、その内容を熟考したり、丹念に校正する間もなく、一〇冊の本を出版しました。

しかし、田中氏は、今回、児童聖書学校時代から今日までの六〇年間もあたたためてきた聖書の御言葉と歳時記とを見事に合致させ、素晴らしい内容の本を出版されました。私は信仰の友として心からの感謝と賛美とおくりします。

この本は、一年三六五日の朝ごとのデポジションに使えるだけ

けでなく、その月ごとの教会暦の出来事を記したり、その月の自然、行事、花言葉や味覚、そして星座に関する記事が記され、俳句が「私の一句」としてまとめられています。

私の誕生日は一〇月一日ですので、一〇月の教会暦を見ますとマルチン・ルターによる紀元一五一七年の宗教改革記念日とそれに関する短い説明があります。

「10月の自然の言葉」には、秋晴れ、いわし雲、紅葉、落葉、夜長、朝霧、夜露、朝露、秋冷……があります。

「10月の花・木」では、てっぼう百合、ボンボンダリヤ、ききょう、まつむしそう、きくの花、秋明菊、いちよう、ほととぎす、もくせい、もみじ、と続きます。

「10月の味覚」には、秋さば、秋さわら、いいだこ、いなだ、落ちあゆ、ししゃも、さんま、たい、カツオ、などがあり、創造主を覚えるコメントがさりげなく書かれています。

「10月の星座」では、北斗星を中心に、夜空を見上げてください。北斗七星、小熊座を見つけることが出来ます。とあり短いコメントのあとに、「わたしの一句」として六点ほどが掲載され、

コスモスの 散りてすぐそこ 待降節
というように一句が紹介されています。

さらに次のようなコメントがあります。

さて、この月に誕生された方の日々に、主の御祝福が豊かにありますようお願いいたします。では、聖句に目を向けてまいりませう。ご自分に合った聖句であれば幸いです。

10月1日 箴言10章1節「知恵ある子は父を喜ばせ、愚かな子は母の悲しみである。」……

ヨハネ10章1節「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門から入らないで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人です」とあり、聖句ごとにその絶妙な解説があります。

筆者はこの『私の聖書歳時記366日』をあなたの食卓に置くことを心からお勧めします。

イエスは答えて言われた『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある」と。

(ふじわら・たかゆき 日本福音キリスト教会連合 西甲府教会牧師)
(A5判上製・四五六頁・本体二八〇〇円＋税・ヨベル)

カトリック側から語られるルター理解
W・カスパー著
高柳俊一訳

マルティン・ルター
エキュメニズムの視点から



鈴木 浩

著者は、「このようなエキュメニカルな精神においてカトリック神学はこれまでの五〇年の間にかつてのマルティン・ルターに対する一方的、否定的な評価を改めてきました」と「日本の読者の皆様へ」の中で語っている。「改めてき」たその結果が本書に要約されている。ちなみに、バチカンとルーテル世界連盟（LWF）の間の神学対話の委員会である「一致に関するルーテル・ローマ・カトリック委員会」（Lutheran and Roman Catholic Commission on Unity）も今年（二〇一七年）五〇周年を迎える。

カスパーは「一六世紀の議論の中心的な問題、すなわち義認の教理において基本的合意を達成することができました」とも語っているのだが、それがこの委員会の最大の成果であった『義認の教理に関する共同宣言』であった。宣言文書に対する両教会代表による署名は、ドイツのアウグスブルクで行われた（一九九九年一〇月三二日）。

本書は、本文が五〇頁にも満たない小さな著作であるが、次の七つの章から構成されている。

- 第一章 衰退から新たな出発への過渡期
- 第二章 ルターの意図——キリスト教の福音に基づく再生
- 第三章 教派の違いの時代の成立と終わり
- 第四章 ルターと近代精神
- 第五章 カトリック性の新しい発見としてのエキュメニカルな時代
- 第六章 マルティン・ルターのエキュメニズムにとっての今日的意義
- 第七章 慈しみのエクメネー——一つの展望

カスパーは、「若いルターはいわば改革派カトリック教徒と呼んでもいい」（一九頁）と語っている。同様に「中世後期の典型的な神学者」と初期のルターを位置づけるマクグラスは、そのルターが「改革者」へと変貌していくプロセスを論じているのだが（『ルター』の十字架の神学）、本書の性格上当然であるが、本書にはそれはない。カスパーは、今日ルターがどのように見られているのかを次のように指摘する。「ルターはかなりの数の人々にとってはすでにプロテスタント、カトリック共に理解を深めることができるでしょう」と書いている。カトリックのエキュメニズム部門の最高責任者だったカスパーが、ルーテル教会との対話に熱心だった背景には、無論、本書で明らかにされている「エキュメニズムの視点から見たマルティン・ルター」の理解がある。

本書は小さい割にはなかなか贅沢である。訳者は日本のカトリックの代表的な神学者高柳俊一・上智大学名誉教授、また巻末に置かれた「W・カスパー枢機卿『マルティン・ルター』を読む」という解説文を寄せているのは、ルター研究の第一人者の一人、徳善義和・日本ルーテル神学校名誉教授である。カトリック教会によるルター理解がここまで進んだのかという感慨をもって本書を読み終えた。

（すずき・ひろし）ルーテル学院大学ルター研究所所長
（B6判・一〇四頁・本体一四〇〇円＋税・教文館）

『義認の教理に関する共同宣言』の日本語訳が、二〇〇四年一〇月三二日に出版される際に（教文館）、教皇庁キリスト教一致推進評議会議長であったカスパーは、「日本語版への序文」を寄せているが、その中で「私は『共同宣言』の日本語訳を大きな喜びをもって歓迎したいと思います。日本のキリスト者が、到達した合意を自分の言葉で学ぶことができるようになるからです。神学校、神学部や教会で、神学生も司祭・牧師も教会信徒も到達したことについて、また、まだ残されている課題ついで

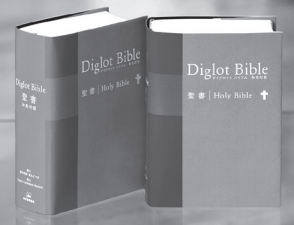
新しい
和英対照聖書が
できました。

日本語訳と英語訳の
理想的組み合わせ

総ルビ 和英対照聖書

ダイグロット
バイブル

Diglot Bible



English Standard Version
聖書 新共同訳 総ルビ

1 欽定訳の伝統を引き継ぐ、原典に忠実かつ格調が高い全世界で急速に愛読者が増えている、必読の英語訳『ESV』

2 カトリックとプロテスタント諸教会、全国のミッションスクールで、圧倒的シェアを誇る『聖書 新共同訳』

●B6判 ●旧新約・3,120頁
●本文：約8ポイント ●総ルビ
●巻末カラー地図（日本語英語各7葉）つき

定価（本体6,300円＋税）

NIESV54DI ピンク
ISBN978-4-8202-1334-5

NIESV54DI ブルー
ISBN978-4-8202-1335-2

お求めはお近くの書店または

日本聖書協会
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル
TEL03-3567-1987 http://www.bible.or.jp/

本屋さんを選んだ お勧めの本

アバコ・ブックセンター

加藤久絵

『活動だいすき！』

CSわいわい
アイディア集』

教師の友編集部編



1,800円+税
日本キリスト教団出版局

新年度を迎えるこの季節。草花がほほえみ、柔らかな光が新しい始まりを知らせる楽し気な一日に、今にも雨が降り出しそうな顔で来店される方がいます。子どもたちの愛らしい笑顔を絶やさないようにと、重い重い荷物を抱えておられるのだろうと察します。そんな方に、まず初めにおすすめしているのがこの一冊です。

旧約聖書・新約聖書の中のお話しやキリスト教行事にそったさまざまな工作・レクリエーションなど、子どもたちと楽しく過ごせる活動アイディアがたくさん詰まっています。歌あり、劇あり、料理あり……とにぎやかで、まさに「わいわい」という響きが聞こえてきそうな一冊です。本棚に準備しておけば、きっと困ったときにキラ

『祈りの力
1分間の黙想』

E・M・ハウズ著



1,800円+税
日本聖書協会

静岡聖文舎

増田直秀・杉村暁子

日毎の黙想・祈りに最適の1冊だと思えます。

『聖書人物
おもしろ図鑑
新約編』

中野 実監修



1,500円+税
日本キリスト教団出版局

新約聖書の登場人物を紹介、その人物の登場している聖書の物語が簡潔に書かれています。子どもから大人まで楽しく聖書が学べます。

りと光るアイディアへと導いてくれることでしょう。子どもたちの頭は柔らかく、楽しさにパワフルです。そのキラキラとしたエネルギーについてゆくには、私たちも「楽しむ」という特効薬を胸に持ち続けたいものです。活動を子どもたちとともに「わいわい」と楽しめば、歳とともに「これは、こうすべきだ」と固まってくる思考を、肩こりとともに柔らかく揉みほぐしてくれることでしょう。そして子どもたちとともに楽しく過ごす枝には、たくさんの柔らかなアイディアがまた一つ、また一つと香り豊かな花を咲かせることでしょう。ほら、もう春はおとずれています。

この一冊を開きつつ、楽しい交わりの一年間をスタートしてみてください。

アバコ・ブックセンター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-2-18

TEL: 03-3203-4121

FAX: 03-3203-4186

URL: <http://www.avaco.info>

E-Mail: avaco@avaco.info

『フランシスコ
教室さまへ』

片柳弘史訳



1,200円+税
ドンボスコ社

この本は、世界の子どもたちから届けられた、教皇さまへの質問と絵に対して、教皇さまが、一人ひとりに優しく、しかもキチンとお応えになった手紙（実際には、編集者がお会いして録音してきたものを書き起こしたものです）です。

子どもたちの質問はとても素直ですし、身につまされるものもあります。大人でも答えるのに難しい質問にも、教皇さまは子どもたちの手紙や絵から子どもたちの姿を想像し、心情を読み取られて答えておられ、心打たれました。

教皇さまの祈りを通して子どもたちにも神さまの愛が伝わると思います。ぜひ手に取ってご覧ください!!

静岡聖文舎

〒420-0866 静岡市葵区西深草町20-26

TEL: 056-260-6644

FAX: 056-260-5912

E-mail: info@s-seibun.co.jp

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunsho.or.jp>

2016年11月号

巻頭エッセイ：人間であり続けること 岡野昌雄		
続イエスの言葉100選	河合裕史著、日本キリスト教団出版局	山北 宣 久
教会とディアコニア	木原活信他著、キリスト新聞社	森 本 典 子
キリスト教における死と葬儀	石居基夫著、キリスト新聞社	吉 岡 恵 生
ガラテヤの信徒への手紙を読もう	船本弘毅著、日本キリスト教団出版局	岩 田 昌 路
大崎節郎著作集6 実践神学関係	大崎節郎著、一麦出版社	藤 井 和 弘
アガペーの言葉	山崎英穂著、日本キリスト教団出版局	辻 建
十字架につけられた精神	小山見佑著、教文館	深 田 未 来 生
カルヴァン	C.シュトローム著、教文館	石 原 知 弘
三浦綾子366のこぼれ	森下辰衛監修、日本キリスト教団出版局	中 村 啓 子

2016年10月号

巻頭エッセイ：絵本との出会い 鬼形恵子		
天国での再会	中道基夫著、日本キリスト教団出版局	石 居 基 夫
立ち上がれ!	吉岡恵生著、キリスト新聞社	越 川 弘 英
あなたはヨブと出会ったか	今井敬隆著、新教出版社	賈 晶 淳
生きるユダヤ教	勝又悦子他著、教文館	池 田 裕
改革派正統主義の神学	W.J.ファン・アッセルト著、教文館	吉 岡 恵 生
世界がぶつかる音がする	クリスティン・ジャック編、ヨベル	倉 沢 正 則
聖書の中の祈り	大島 力著、日本キリスト教団出版局	願 念 望
人権思想とキリスト教	森島 豊著、教文館	近 藤 勝 彦
約束の言葉への信仰	喜田川信著、教文館	稲 山 聖 修
大崎節郎著作集 第5巻	大崎節郎著、一麦出版社	坂 本 誠
日本キリスト改革派教会宣言集	日本キリスト改革派教会編、一麦出版社	松 田 真 二
欧米留学の原風景	安酸敏真著、知泉書館	村 松 晋

2016年9月号

巻頭エッセイ：修復的贖罪論の可能性を探る 河野克也		
信仰とは何か?	齋藤孝志著、ヨベル	小 林 重 昭
信じることをためらっている人へ	岡野昌雄著、新教出版社	片 柳 榮 一
エレメント 増補改訂版	ジェレミー・ダフ著、新教出版社	ランドル・ショート
キリスト教は女性をどう見てきたか	H.キュンク著、教文館	笹 森 田 鶴
がん哲学外来で処方箋を	樋野興夫編著、日本キリスト教団出版局	榊 原 寛
アレティア ヘブライ人への手紙	日本キリスト教団出版局編	宮 崎 誉
中世における制度と知	上智大学中世思想研究所編、知泉書館	桑 原 直 己
ヨハネス・ア・ラスコ	パーシル・ホール著、一麦出版社	南 純
ふたりのエアリアル	ノエル・ストレットフィールド著、教文館	さくまゆみこ
救済史と終末論	近藤勝彦著、教文館	牧 田 吉 和

2017年2月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：聖書・ヴィトゲンシュタイン・ルター 高井保雄		
従順という心の病	アルノ・グリューン著、ヨベル	富 田 正 樹
聖書に聴く「生と死」	船本弘毅著、教文館	関 田 寛 雄
なぜクリスチャンになるの	ティモシー・ラドクリフ著	岩 城 聡
わたしたちはどんな死に方をしたいのか?	ミハエル・デ・リッター著、日本キリスト教団出版局	窪 寺 俊 之
キリスト教弁証学	近藤勝彦著、教文館	井ノ川 勝
希望の教育へ	レギーネ・シントラー著、日本キリスト教団出版局	大 澤 秀 夫
ルターから今を考える	小田部進一著、日本キリスト教団出版局	神 田 健 次
クリシタン大名 高山右近とその時代	川村信三著、教文館	片 岡 瑠 美 子

2017年1月号

巻頭エッセイ：父の教育と聖書 下田尾治郎		
一分間の黙想 祈りの力	E.M.バウンズ著、日本聖書協会	平 林 冬 樹
クリスマス	ヤン・ピエンコフスキー絵、日本キリスト教団出版局	藤 本 朝 巳
ソクラテスの死とキリストの死	ベルトール・クラッパート著、新教出版社	寺 園 喜 基
島の小さな教会	多摩美術大学環境デザイン学科編著、新教出版社	加 藤 常 昭
改革派教義学5 救済論	牧田吉和著、一麦出版社	坂 井 純 人
信仰生活の手引き 祈り	左近 豊著、日本キリスト教団出版局	広 田 叔 弘
聖書の教える 金持ち父さん、貧乏父さん50	木下和好著、ヨベル	市 村 和 夫
うたであそぼうあそびうた50	鈴木明子作詞・作曲、ヨベル	古 屋 博 規
おいで子どもたち	斎藤淳夫文、日本聖公会	森 下 滋
近代日本のキリスト教と女子教育	キリスト教史学会編、教文館	田 中 智 子
「キリスト者の自由」を読む	ルター研究所編著、リトン	内 海 望

2016年12月号

巻頭エッセイ：多いものにしがう必要はない 比企敦子		
自由への指針	大嶋重徳著、教文館	川 崎 公 平
イエスの降誕物語	及川 信著、教文館	白 正 煥
教会を通り過ぎていく人への福音	ウィリモン他著、日本キリスト教団出版局	芳 賀 力
そうか!なるほど!!キリスト教	荒瀬牧彦他監修、日本キリスト教団出版局	桃 井 和 馬
日本国を建てるもの	梅津順一著、新教出版社	山 口 陽 一
原発と宗教	富坂キリスト教センター編、いのちのこぼれ社	白 石 弘 巳
健康への歩みを支える	石丸昌彦著、キリスト新聞社	河 野 克 也

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隆館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrifkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区136 穀稲センター・I771F	022-223-2736	共用	fqcwk524@ybb.ne.jp		02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中野区新中野2-2-1 新中野センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	seikoshoten@bible.or.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://taishindo@icom.home.ne.jp	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	biblehouse@bible.or.jp		
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yohdara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	info@s-seibun.co.jp		00560-8-51419
清光書店	951-8114	新潟市宮所通一番町313	025-229-0656	共用	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.geocities.jp/matsujama_1007/mexvim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://osakakacts.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	sakai-jbs@bible.or.jp		00960-9-47426
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	hseibun0951@yahoo.co.jp		01150-7-45120
バイブルハウスびぶるの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18 三宮ビル2F	078-331-7569	078-331-9933	http://www.geocities.jp/matsujama_1007/mexvim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177	http://www.kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	01750-5-10932		
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	017304-45044		
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			
沖繩キリスト教書店	903-0207	中頭郡読字線777 沖繩キリスト教センター	098-943-7221	共用			

※ 一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■新教出版社

栗林輝夫著作集 第一巻

日本で神学する (仮題)

栗林輝夫著

西原廉太・大宮有博 共編

2015年に惜しまれつつ逝去した稀代の神学者・栗林輝夫の著作集(全二巻予定)を刊行! 第一巻には、欧米や中南米の神学から学びつつ、あくまで「日本」という文脈に根ざして神学を営んだ著者の選りすぐりの論考を収載。解放神学者としての賀川豊彦論・田中正造論から、ポスト・フクシマの神学まで。実践にこだわった栗林神学がここに!

A5判・予352頁・本体予価3500円

■日本キリスト教団出版局

キリシタン音楽入門

洋楽渡来考への手引き

皆川達夫著

秀吉が聴いた少年使節の洋楽演奏。400年前に長崎で印刷された楽譜つき聖歌集。聖マリアへの祈りの歌を仮名文字で書き留めた写本。かくれキリシタンが歌い継いだ歌オラシヨ。あの等曲の名曲とグレゴリオ聖歌との不思議な符

INFORMATION

近刊情報

合……。戦国末期の日本に初めて渡来し、徳川幕府のキリスト教弾圧により消えていった西洋音楽。その姿を探り続けた西洋古楽・キリシタン音楽研究の大家が、一般読者向けにやさしく語り下ろす待望の入門書。

四六判・184頁・本体1600円

■教文館

キリスト教教父著作集2・II

エイレナイオス2 異端反駁II

エイレナイオス著

大貫 隆訳

グノーシス主義の反駁を目的として書かれたエイレナイオスの主著(全5巻)の第2巻。ヴァレンティノス派をはじめとするグノーシス諸派の神話に対して、論点ごとにその思弁の矛盾を論破し、精細な内在的批判を加えていく。本邦初訳!

A5判・函入・226頁・本体4000円

福音と世界

2017年5月号

特集 サクラメント——宗教改革500年⑤

寄稿者 鈴木浩 眞正謨、原敬子、松島雄一、中野泰治、藤井創

書評 青野太潮『パウロ』 深澤愛

好評連載 聖書とわたし(ブレイデイミかこ)、台湾キリスト教史(高井ヘラー由紀)、現代神学の冒険(芦名定道)、詩篇(月本昭男)、第一

テモテ書(辻学)、レヴィナスの時間論(内田樹)、アメリカの神学と教会のいま(吉松純)ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyu-pb.com

編集室から

たいてい小説を読んで寝る。眠いのであまり読み進められな
いし、気づけば同じところを何度も読んでいたりしているが、でも
楽しい。神学や哲学が分析的に明らかにした神と人の真実が、
小説の中で受肉しているのを見出すのは、うれしいし、慰めを
受ける。

年明けから読んでいるのは佐藤泰志。どれくらい知られてい
る作家なのだろう。村上春樹と同一年一九四九年に生まれ、新人
賞をとったのも同じころ。物語を構成する要素も、共通性を感じ
ることもある。ただ、佐藤の作品は暗い。彼が四十一歳で自
ら死を選んだことを知れば、その印象はいっそう強まる。しか
し、その垂れ込める厚い雲を破って射し込んでくる一筋の光を
感じるとき、彼の作品は不思議と忘れがたいものとなる。

佐藤泰志と言えば、詩人・福岡健二である。佐藤について多

くの美しい文章を書いている福岡が、ある文庫の解説を「佐藤
泰志の小説の大きな魅力のひとつは、人と人の出会いの描き方
にある」と書き出して、納得した。誰かとの出会いを通し
て、佐藤の登場人物は光を受ける。

以前、わからないままに読んだ思想家の言葉を思い起こす。
アウシュヴィッツからの帰還者であるこの思想家は、私たちは
どこで神に出会うのかと問い、他者の内にその場を見た。神は
遠くの天におられるのではなく、目の前の他者の内に顕現なさ
る。そう理解できるるとき、目の前のこの人は、私の自由に操れ
る存在、私が殺すことの出来る存在、私の延長ではなくなり、
彼方から訪れる真の他者となる。

日々の暮らしに「まずき倦怠」者たちが、誰かと行き会うこ
とをきっかけに、小さな救いを経験していく。それを慈しみを
もって書き留める佐藤の小説を読む者は、そういえば自分もそ
のような光を得てきたと思ひ出すのだ。
(土肥)

本のひろば 2017年6月号 予告

本・批評と紹介・錦織博義著『決定版 一人の伝道者に注がれた
神のまなざし』、エイレナイオス著『キリスト教教父著作集
211 エイレナイオス1 異端反駁I』、大塚野百合著『受難と
復活の賛美歌ものがたり』、R・ラングドゥ編『キリストは甦られ
た——20世紀レント・イースター名説教集』、H・J・クラウ
ク著『初期キリスト教の宗教的背景——古代ギリシア・ローマ
の宗教世界 上巻』他

山上の説教から憲法九条へ

平和構築のキリスト教倫理

宮田光雄著

今日の国際情勢の中で、山上の説教によって平和をつくれるのか――。

4月25日

「右の頬を打たれたら左の頬をも向けよ」「兵役拒否のキリスト教精神史」「近代日本のキリスト教非戦論」「非武装市民抵抗の構想」の4論文を収録。聖書釈義から思想的考察を経て憲法九条に基づく防衛戦略構想に及ぶ、いま必読の書。 ◆B6変型判・本体1800円

文脈化するキリスト教の軌跡

イギリス人宣教師と日本植民地下の台湾基督長老教会

三野和惠著

台湾教会史とキャンベル・ムーデーに関する画期的労作。植民地という文脈と格闘した台湾教会と英国人宣教師の出会いと両者の変容。 ◆A5判・本体7000円

好評

宗教改革の人間群像

木ノ脇悦郎著 エラスムスの往復書簡から

メラニヒトン、エコランパデイウス、フランソワ1世、ヘンリー8世、エック、ベダ等々 8人との文通を通して浮かび上がる激動の時代状況。 ◆四六判・本体3000円

好評

内なる生 霊性の涵養とはいかにして可能か

イヴリン・アンダーヒル著／金子麻里訳

20世紀前半に活躍した女性思想家が平易に語った三つの講話。多忙な現代人の魂のケア、祈りと観想、愛と奉仕のあり方をめぐる透徹した考察。 ◆小B6・本体1800円

好評

イエスの譬え話 2

話題!

山口里子著 いのちをかけて語りかけたメッセージは?

十字架の上で果てたその生において、イエスが伝えようとしたメッセージとは何だったのか。イエスの言葉の核心を取り出す「疑いの解釈学」の最新成果。「10人の乙女たち」など解釈困難とされてきた譬え話が、全く新たな姿を見せる。 ◆A5判・本体2200円

新装
復刊

イースター・ブック マルティン・ルター／中村妙子訳

改革者の言葉と木版画で読むキリストの生涯 ◆B5変型判・本体1800円

キリシタン音楽入門

洋楽渡来考への手引き 皆川達夫

大河ドラマ「真田丸」や映画「沈黙—サイレンス—」
でも歌われた「キリシタン音楽」



キリスト教弾圧で
消えていった幻の音楽について
古楽研究の大家がやさしく語る

戦国末期の日本に渡来し、キリスト教弾圧により消えていったヨーロッパ音楽。秀吉が聴いた少年使節の洋楽演奏、かくれキリシタンが歌い継いだ「歌オラシヨ」、箏曲「六段」とグレゴリオ聖歌との不思議な符合など、幻の「キリシタン音楽」の姿を探り続けた西洋古楽研究の大家が語り下ろす、待望の入門書。

◆四六判 並製・184頁・1,728円

2017年
4月25日
刊行予定

イベントのご案内

日本キリスト教団出版局設立50周年・『讚美歌21』刊行20周年

感謝礼拝・記念講演会 (入場無料) ※要申込み

日時 2017年7月15日(土)
午後1時30分～4時

会場 日本基督教団
富士見町教会
JR「飯田橋駅」西口より徒歩1分

定員 先着300名

◆感謝礼拝

説教：真壁 巖氏 (日本基督教団 相愛教会牧師)
奏楽：椎名雄一郎氏 (活水学院オルガニスト)

◆記念講演会

「希望とは、にもかかわらず愛すること
——三浦綾子の人生と文学」
講師：森下辰衛氏 (三浦綾子記念文学館特別研究員)

申込み

下記まで氏名・住所・電話番号を添えてお申し込みください。先着順に入場整理券を送付いたします。

日本キリスト教団出版局 出版局50周年記念企画係

■TEL 03-3204-0422 ■FAX 03-3204-0457 ■e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp